

「柏崎の橋」

17 鯖石橋

岡野町地区の主要地方道松代高柳線から分かれて、鯖石川と交差し、一般県道松代岡野町線につながる橋を鯖石橋という。



平成13年11月に供用開始された長さ35m、幅12m（片側3.5mの歩道を含む）で、現在は3代目である。



【三代目鯖石橋（現在）】

平成2年の高柳連続地震で損傷が進んだこと、じょんのび村を中心とした観光交流事業による交通量の増大に対応するため、併せて特別養護老人ホーム「柏柳の里」、川磯、枳ヶ原集落へ通じる生活道路として、鯖石橋前後の町道橋詰線の改良と併せて（現在は市道柏崎橋詰線（高柳2-23））平成11年度から3か年で、県の市町村代行工事として4億7千万円の工費が投じられた。

2代目の面影を残す上部式鉄筋コンクリート式PC固定アーチの橋梁形式で、2分割で工場製作したコンクリート製アーチ部を両岸から吊り下げて合体させて橋台に設置する全国初の工法を採用した。消雪パイプは左岸の井戸で取水したものを送水している。

2代目は、県内初のコンクリート橋として県近代化遺産に指定された。蔦がからまり周囲の自然と調和して、多くの人に親しまれてきたが、平成12年9月に取り壊された。昭和12年7月から1万2千円の工費を投じ、長さ33m、幅5.5mで、昭和13年6月に供用が開始された。当時県下第2位の高さであり、県の技師が山梨県まで視察に行って設計したとのエピソードも残されている。



【二代目鯖石橋】

初代は木橋で、明治25年改築、昭和3年改修、幅員わずか2間（3.6m）と昭和13年6月30日

付けの柏崎日報の紙面に、初代の姿を見ることができる。



【初代鯖石橋】

●参考資料

- ・「新潟日報」H12.8.29
- ・「新潟日報」H13.11.26
- ・「三十年時の流れと刈羽・柏崎の変貌」刈羽柏崎地区土木振興会編（510カリ）
- ・「新潟県の近代化遺産」新潟県教育委員会（500Nキヨ）